

公益財団法人東京都福祉保健財団

令和4年度第2回定時評議員会 議事録

1 日 時 令和5年3月22日(水曜日) 18時00分～18時59分

2 会 場 公益財団法人東京都福祉保健財団 職員会議室1・2

3 現在の評議員数 13名(定足数7名)

4 出席評議員 和気 康太、繁田 雅弘、室田 信一、柳橋 礼子、小島 操、
横山 宏、本橋 たくみ、山田 ひろし、大松 あきら、
北澤 千恵子、岩井 志奈

出席監事 岩崎 雄大

欠席評議員 平川 博之、野澤 薫

欠席監事 高野 克己

5 議決事項

第1号議案 令和4年度予算の補正(専決処理)について

第2号議案 令和4年度予算の補正及び流用について

第3号議案 令和5年度事業計画及び予算について

第4号議案 公益財団法人東京都福祉保健財団の役員及び評議員の報酬等及び費用
弁償に関する規程の一部改正について

第5号議案 常勤役員の報酬額について

第6号議案 理事の選任について

6 報告事項

報告事項1 評議員選定委員会の選任結果について

7 出席状況及び議事録への記名・押印の確認

定刻となり、吉川経営部長から開会に先立って、新たに評議員に就任した本橋評議員の紹介があった。続いて、吉川経営部長から新たに評議員に就任した山田評議員の紹介があった。続いて、吉川経営部長から評議員に再任した大松評議員の紹介があった。続いて、真田理事長が挨拶を行った。続いて、吉川経営部長が配布資料の確認を行った。続いて、定款第19条に基づき出席評議員による議長の互選が行われ、和気評議員が選出された。続いて、議長が開会の宣言を行い、事務局に対して出席状況の報告を求めた。事務局より、評議員13名中11名がオンラインでの出席であることから定款第20条第1項に規定された定足数7名を満たし本評議員会は有効に成立することを報告した。続いて、定款第21条の規程に基づき、和気評議員、柳橋評議員及び岩井評議員が議事録に記名、押印することが確認され、議事の審議に入った。なお、適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることも確認した。

(3)

8 議事の経過及び結果について

(1) 第1号議案 「令和4年度予算の補正（専決処理）について」

議長からの指示により、大久保事務局長が第1号議案「令和4年度予算の補正（専決処理）」について、議案及び説明資料を用いて説明を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなかった。

議長が第1号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

(2) 第2号議案 「令和4年度予算の補正及び流用について」

議長からの指示により、大久保事務局長が第2号議案「令和4年度予算の補正及び流用」について、議案及び説明資料を用いて説明を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなかった。

議長が第2号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

(3) 第3号議案 「令和5年度事業計画及び予算について」

議長からの指示により、大久保事務局長が第3号議案「令和5年度事業計画及び予算」について、議案及び説明資料を用いて説明を行い、併せて、「資金調達及び設備投資見込み」についても説明を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、小島評議員から、介護支援専門員養成研修事業について、受講者数の算出方法及びオンラインと集合型の研修実施方法の動向とオンライン研修の評価について質問があった。これに対し、守田人材養成部長が受講人数については都と調整し受講者のニーズを満たすよう設定しており、応募が多い研修の規模を増やすなど柔軟に対応している旨、及び現在はオンラインが7割、集合型が3割程度で研修を実施しているが、令和6年度のカリキュラム改訂の検討と合わせて、受講者アンケートの内容なども踏まえ、次年度の実施方法やこれまでの評価についても議論されるものと考えられる旨回答した。これに対し、和気評議員から、オンラインと集合のハイブリッド型の研修実施方法の最適解を見つけられるように検討してもらいたい旨意見があった。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、山田評議員から、障害者権利擁護推進事業について、事業を進める上での課題認識、及び介護サービスを提供する事業者への次世代介護機器等の支援実績の内容について質問があった。これに対し、守田人材養成部長が障害者虐待の件数は増加傾向にあり、都において対策を強化する必要があることから、職員の入れ替わりが激しい現場実態等を踏まえ、毎年度内容をブ

ラッシュアップしている研修の規模拡大や、区市町村においてマンパワー不足などから適切な対応ができていない懸念もあることから、新たに専門職を配置し、区市町村からの相談を受け付ける支援を実施するなどの新規事業を予定している旨回答した。続いて、渡部福祉情報部長がデジタル機器及び次世代介護機器の導入促進支援については、実績を踏まえて規模を増やしている旨、及び事業者が補助金申請をし、翌年度、違う機器の導入に係る補助金申請をしても受け付けている旨回答した。これに対し、山田評議員から、補助金申請をしたことがない事業者へのアプローチ方法も検討して欲しい旨意見があった。これに対し、和気評議員から、特定の事業者に申請が偏ることが懸念されるため実際にどの程度支援が広がっているのか調べてみる必要もある旨意見があった。これに対し、渡部福祉情報部長が次世代介護機器の導入実績は、介護施設の労働実態調査によると1割程度が進んでいるという結果が出ているが、全体に支援が広がるよう現在でも機器の導入を促進するセミナーや公開見学会の実施、次世代機器の体験展示コーナーの運営などを実施している旨回答した。これに対し、和気評議員から、次世代介護機器の具体例について質問があった。これに対し、渡部福祉情報部長が次世代介護機器はロボット技術の応用による、装着式のパワーアシスト機器や非装着式の介助者による抱え上げのアシスト機器、見守りに関するセンサーや外部通信機能を有する機器である旨回答した。これに対し、和気評議員が施設毎に適する次世代機器が異なると考えられる旨意見があった。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、横山評議員から、外国人未払医療費補てん事務の内容について質問があった。これに対し、小林事業推進担当部長が当該事業の実績は、医療機関から前年度の実績を申請してもらい把握している旨、及びコロナの影響から補てん額は減少傾向にある旨回答した。これに対し、横山評議員から、制度を知らない外国人が支払いをしないということかとの質問があった。これに対し、小林事業推進担当部長が医療機関にかかる外国人は資力がないことが多い旨回答した。

(4)

明
福
い

か

身

(5)

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなかった。

議長が第3号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

(4) 第4号議案 「公益財団法人東京都福祉保健財団の役員及び評議員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正について」

第5号議案 「常勤役員の報酬額について」

議長から、効率的な審議のため第4号議案及び第5号議案を事務局が一括して説明することについて指示があり、大久保事務局長が第4号議案「公益財団法人東京都福祉保健財団の役員及び評議員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正」について及び第5号議案「常勤役員の報酬額」について、議案を用いて説明を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなかった。

議長が第4号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

続いて、議長が第5号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

(5) 第6号議案 「理事の選任について」

議長からの指示により、大久保事務局長が第6号議案「理事の選任」について、議案を用いて説明を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなかった。

議長が第6号議案について挙手による表決を求めたところ、出席評議員全員の挙手が確認され、原案どおり承認された。

(6) 報告事項1 「評議員選定委員会の選任結果について」

議長からの指示により、大久保事務局長が報告事項1「評議員選定委員会の選任結果」について報告を行った。

続いて、各評議員等に対し意見を募ったところ、発言はなく、質疑を終了した。

議長は、本日予定していたすべての審議が終了したことを確認し、議事を終了した。

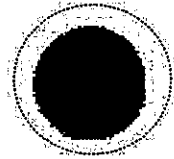
その後、議長が閉会を宣言して令和4年度第2回定時評議員会を終了した。

本評議員会の議決を証明するため、議事録署名人において署名押印する。

議事録署名人

(議長)

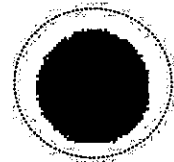
和気 康太



議事録署名人

(評議員)

柳橋 礼子



議事録署名人

(評議員)

岩井 志奈

